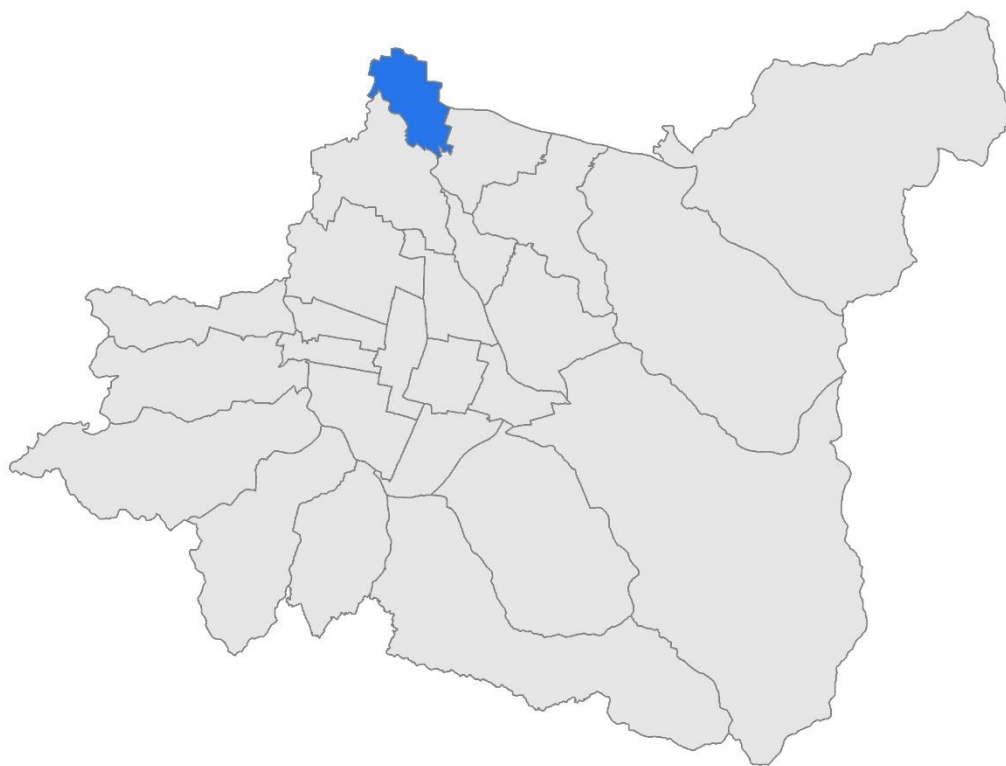


山形市都市計画マスタープラン地域別構想

明治地区



山形市

地域別構想の役割

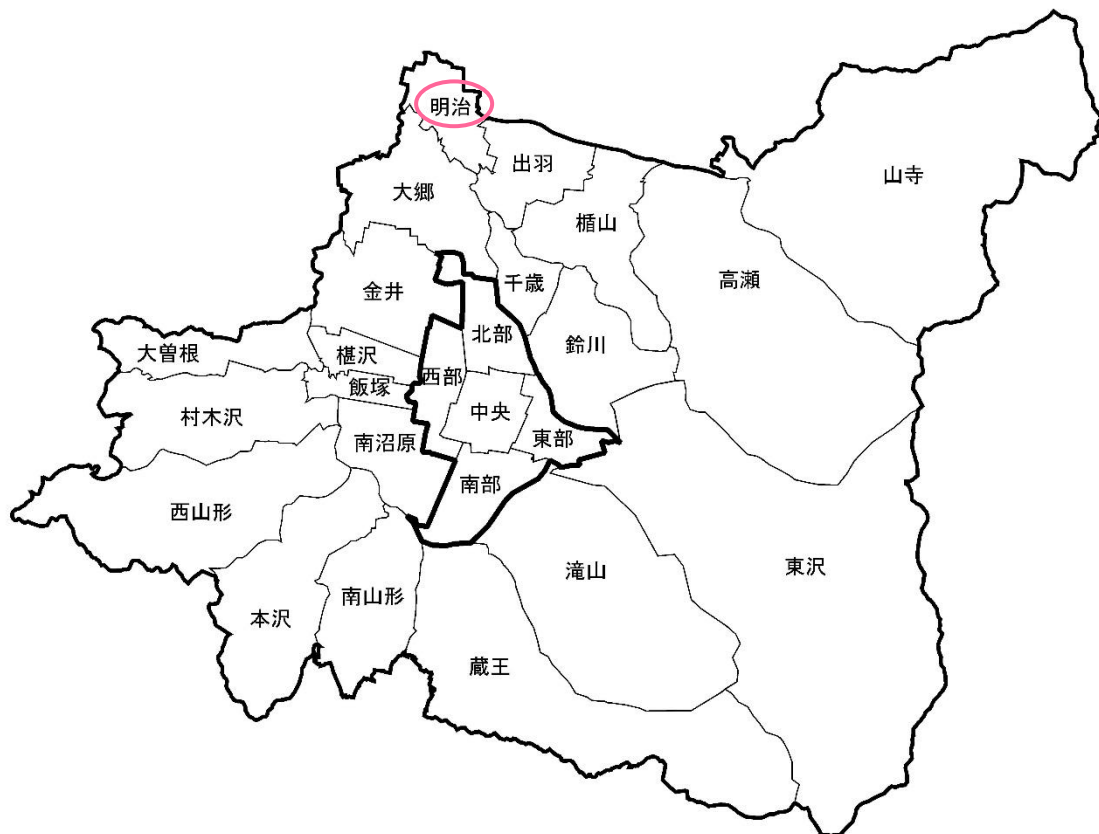
■地域別構想とは

全体構想や分野別構想における各地域の位置づけ等を踏まえ、地域特性や固有の課題に応じた地域ごとのまちづくりの方針を示すものです。

■地域区分の考え方

都心地域については、歴史的な経過や地理的条件、地域特性などから、ある一定のまとまりをもってまちづくりを考える地域として東西南北中央の5つの地域に区分します。

都心地域以外の地域については、旧村単位の地域ごとに地域づくりの拠点として、コミュニティセンターが設置され、それぞれの地域ごとに独自のまちづくり活動を展開していることから、旧村区域により20の地域に区分します。



1 地域の特徴と課題

地域の特徴

◆市の北端に位置し、市内を流れる主要な河川が流れ込む、平坦で肥沃な田園地帯です◆

- ・地区の大半が圃場整備のされた優良農地（農振農用地）で占められ、それを取り囲むように渋江、灰塚、中野目の古くからの集落が位置しています。
- ・地区の西側には赤坂団地が位置し、新たなコミュニティを形成しています。
- ・地区内には、古くからの集落沿道特有の石積みや生け垣など風情ある街並み景観が残っています。
- ・西に「月山」、「朝日連峰」、「葉山」、東に「蔵王」が一望でき、眺望において優れたロケーションにある地域です
- ・果樹栽培も盛んな地域で、「さくらんぼ」のほか「りんご」、「ラ・フランス」、「もも」などの果樹園が広がっています



地区内から望む月山・葉山



風情ある街並み景観

◆人口は減少傾向にあり、高齢化が進んでいます◆

- ・人口は、平成13年の赤坂団地の完成により一旦増加しましたが、その後は減少傾向が続き、平成27年で平成7年と同水準となっています。
- ・人口に占める高齢者の割合は29.3%で、20年間でおよそ7%増加しています。赤坂団地へ、30～40代をメインに生産年齢人口が多く入居したため、他の農村地域と比較して高齢化率は低くなっています。
- ・赤坂団地へ入居した人口の世代構成に偏りがあるため、今後著しく高齢者の割合が大きくなるおそれがあります。

	明治地区				
	総人口	～14歳	15～64歳	65歳～	年齢不詳
平成7年	2,197	327	1,376	494	0
平成17年	2,517	429	1,535	553	0
平成27年	2,225	267	1,305	653	0
増減 (H27-H7)	28	-60	-71	159	0
山形市全域					
平成27年	253,832	31,869	151,271	68,745	1,947

◆路線バスが走っていない数少ない地域のひとつです◆

- ・モータリゼーションの進展に伴い利用者が減少したことにより、区内を走る民間バス事業者によるバス路線が廃止になり、以来バス空白地域となっています。
- ・地域住民の生活交通を確保するため、地区町内会が母体の大郷明治交通サービス運営協議会を運行主体とする、地区と周辺の主要な施設や中心市街地を結ぶデマンド型タクシー「スマイルグリーン号」が運行されています。



スマイルグリーン号

◆広域都市圏を形成する1市1町と隣接する地区です◆

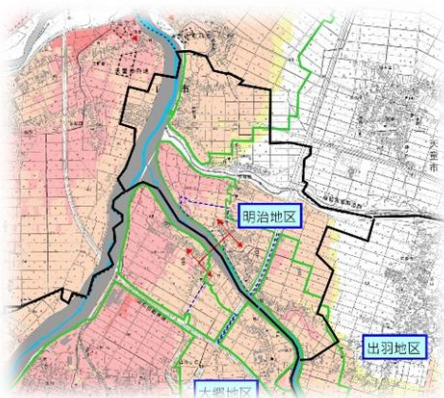
- ・山形市とともに山形広域都市圏を形成する天童市及び中山町と接し、都市計画道路天童中山線が1市2町をつないでいます。
- ・山形定住自立圏形成協定に基づき、公共交通広域ネットワークの構築を図ることを目的に、スマイルグリーン号の運行区域が中山町まで拡大しています。これにより、地域住民が中山町にある都市機能へアクセスすることができるようになると同時に、中山町民の市内にある高次の医療機関等へのアクセスに対し大きな役割を担っています。

◆生活の利便性の面での住民満足度が低くなっています◆

- ・区内に日常生活に必要な買い物のできる施設がないこと、路線バスの空白地域となっていることから、市民アンケートにおいて、「買い物の便利さ」や「生活利便施設へのアクセスのしやすさ」、「通勤・通学のしやすさ」に対する満足度が低くなっています。
- ・「公共交通の利用しやすさ」に対しては、不満足度が極めて高くなっています。

◆馬見ヶ崎川と立谷川が須川に合流する地域です◆

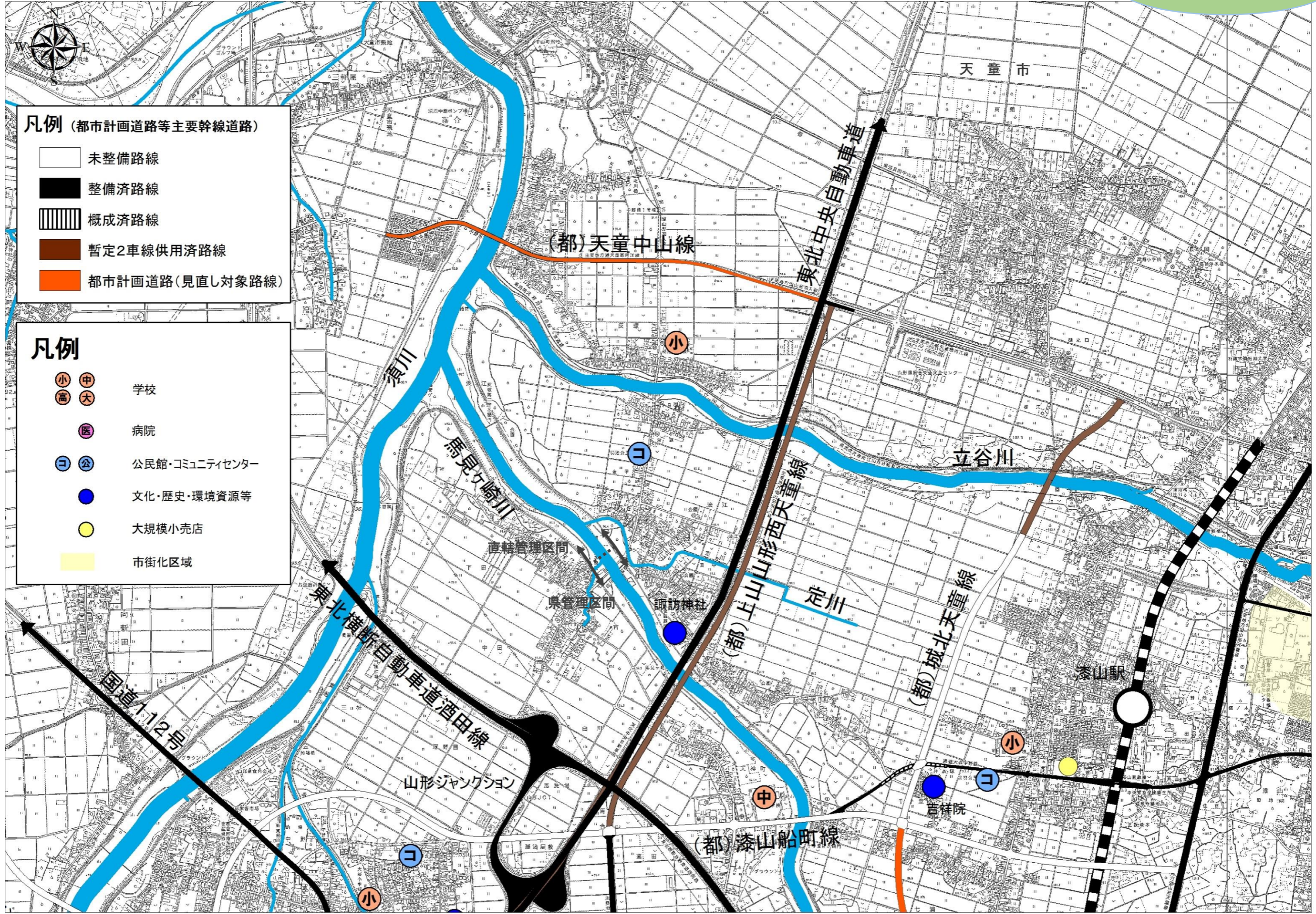
- ・市内を流れる主要な3つの河川が区内で合流する地勢から、地区一帯が洪水浸水想定区域に指定されています。



洪水浸水想定区域



須川



凡例 (都市計画道路等主要幹線道路)

- 未整備路線
- 整備済路線
- 概成済路線
- 暫定2車線供用済路線
- 都市計画道路(見直し対象路線)

凡例

- 学校
- 病院
- 公民館・コミュニティセンター
- 文化・歴史・環境資源等
- 大規模小売店
- 市街化区域

地域の課題

土地利用に関する課題

- ・人口減少と少子高齢化が進展し、地域コミュニティの維持・活性化に向け、地区内への定住・回帰を促進するための優良な居住環境の創出が必要です。
- ・地区内の優良農地は農業の生産基盤であるとともに、国土の保全や良好な景観形成など多面的な機能を有する貴重な財産であることから、有効に活用することで維持・保全を図り、次世代で引き継ぐ必要があります。
- ・地区内には日常生活に必要なサービス機能を有する施設の立地が少ないことから、必要最低限の機能の維持・確保を図るとともに、交通弱者でも地区外の施設へアクセスできる環境整備が必要です。

交通に関する課題

- ・小中学生の通学路となっている既存の集落をつなぎ合わせる道路と新しく整備された道路（東北中央自動車道や（都）上山山形西天童線）の交差点においては、信号や横断歩道のない交差点が多く、児童、生徒の安全確保の面から適切な安全対策が求められています。
- ・路線バスの空白地域であるため、これを補完するため地域主体で「スマイルグリーン号」を運行していますが、事前予約制であること、運行の時間帯や経路の面から利用が進んでおらず、更なる利便性の向上による利用促進が課題となっています。
- ・スマイルグリーン号が中山町まで延伸して走っていますが、周辺市町にお住まいの方の市内にある高次の医療機関等へのアクセスに重要な役割を担っており、広域的な視点での需要への対応するためのサービス強化が求められています。
- ・高校生の通学に関し、自転車の活用が難しい冬期間は保護者による送迎が必要となっており、このような特定の属性の方の特定かつ小規模な移動ニーズを踏まえた移動手段の確保が求められています。



（都）天童中山線と赤坂団地



明治コミュニティセンター

その他まちづくりに関する課題

- ・地区内の須川、馬見ヶ崎川については、河川改修（築堤）は完了していますが、河道断面が完成形でないため流下能力が低く、大雨の際の洪水発生の可能性が未だ高い状況です。
- ・避難所に指定されている明治コミュニティセンター及び明治小学校は、洪水による浸水被害が想定される区域内にあるため、災害発生時の避難のあり方について検討が必要となっています。
- ・反面、日常生活における河川空間は、暮らしに潤いや安らぎをもたらすレクリエーションの場として有効活用を図る必要があります。
- ・都市計画マスタープラン地域別構想の策定を契機とし、地域住民主体の積極的なまちづくり活動を促進するとともに、これを行政が積極的に支援する仕組みづくりが必要です。

地域の声（意見交換での意見や地域の要望など）

【土地利用】

- ・人口減少対策として、既存集落外に1つの新たなコミュニティが形成できるような市主導による住宅団地の開発が必要であるとの意見があります。
- ・地域活性化の核となる公共施設等の立地を求める声があります。
- ・開発が可能な用地の確保を図るため、主要幹線道路沿線を農振除外すべきだとの意見があります。

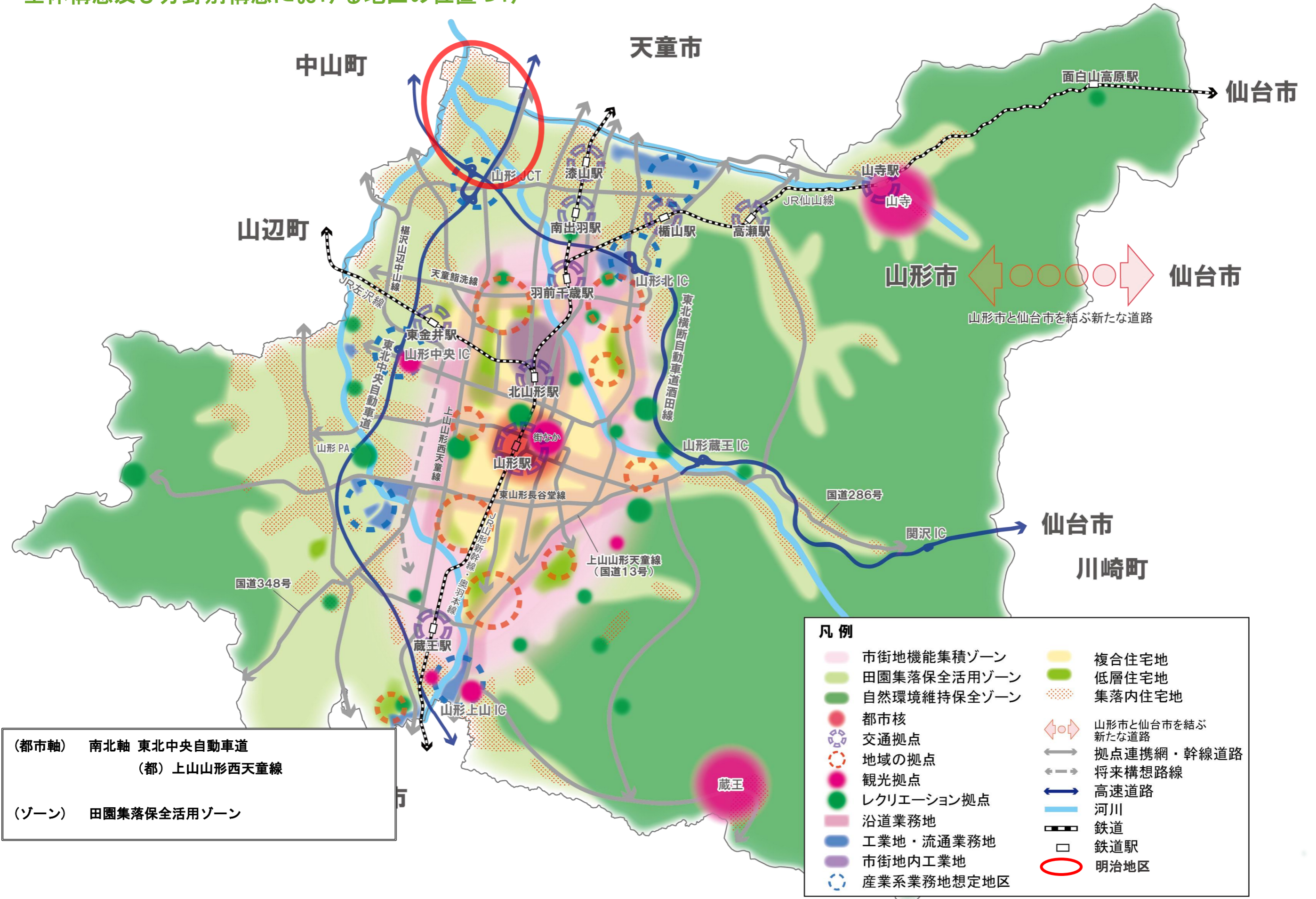
【交通】

- ・定時定路線型の路線バスの復活を望む声があります。
- ・スマイルグリーン号は事前予約制であるため使いにくいとの意見があります。

【その他まちづくり】

- ・大雨が降った場合の内水被害を軽減するため、排水のための大型ポンプの常備を求める意見があります。
- ・地区が河川で分断されているため、豪雨災害時の安全な避難経路及び避難場所の確保が求められています。
- ・管理が適正になされていない老朽化した空き家は、建物の一部の飛散、樹木や雑草の繁茂など周辺住民の日常生活に大きな影響を与えるおそれがあることから、管理不全状態の改善に向けた対策が要望されています。
- ・農産物直売所やコンビニエンスストア、金融機関ATMといった日常生活サービス機能を有する施設の立地を求める声があり、具体的な整備に際しては、コミュニティセンターの複合施設として整備することが要望されています。
- ・明治小学校の児童数が大幅に減少していることから、年少人口の確保に向けた施策展開とともに、今後の小学校あり方について検討する必要があるとの意見があります。
- ・北部児童館は、未就学児については保護者同伴の利用が原則となっており、より利用しやすい運営形態を求める意見があります。

2 全体構想及び分野別構想における地区の位置づけ



(都市軸) 南北軸 東北中央自動車道
(都) 上山山形西天童線

(ゾーン) 田園集落保全活用ゾーン

凡例	
	市街地機能集積ゾーン
	田園集落保全活用ゾーン
	自然環境維持保全ゾーン
	都市核
	交通拠点
	地域の拠点
	観光拠点
	レクリエーション拠点
	沿道業務地
	工業地・流通業務地
	市街地内工業地
	産業系業務地想定地区
	複合住宅地
	低層住宅地
	集落内住宅地
	山形市と仙台市を結ぶ新たな道路
	拠点連携網・幹線道路
	将来構想路線
	高速道路
	河川
	鉄道
	鉄道駅
	明治地区

3 まちづくりの基本方針

豊かな水と緑に囲まれたうるおいある暮らしを支える

災害に強い安全・安心なまちづくり

土地利用に関する方針

●地区の魅力を活かした良好な居住環境の形成により、定住人口の拡大と地域コミュニティの活性化を目指します。

- ・開発許可制度の見直しや都市基盤施設整備への支援等による既存集落内への移住・定住の促進
- ・空き家バンクや住宅リフォーム支援などを活用した空き家対策による移住者向け住環境の整備推進
- ・日常生活サービス機能の確保・充実に向けた生活利便施設の誘致と公共施設との連携強化

●農業の生産基盤であるとともに都市の営みにうるおいを与える豊かな田園などの優良農地は、担い手の確保・育成を図りながら、保全・活用します。

- ・後継者や新たな担い手の確保による耕作放棄地の発生抑制と優良農地の保全
- ・戦略農産物の生産振興による農業経営の安定化と農地の有効活用

交通に関する方針

●子どもからお年寄りまで快適に移動ができる、安全性の高い生活道路空間の確保を図ります。

- ・小中学校の通学路となっている道路の安全対策の促進
- ・生活道路の質的向上による、日常生活の利便性及び安全性の確保
- ・冬期間における適切な除排雪による安全な歩行者通行の確保

●多様化する地域住民の移動ニーズを踏まえた、より利便性の高い公共交通網を構築します。

- ・スマイルグリーン号の利便性向上と利用促進（鉄道駅や主要なバス停等既存の交通拠点との接続強化、ニーズにあった運行ダイヤへの変更など）
- ・広域的な交通インフラとしてのスマイルグリーン号の有効活用
- ・期間や目的地が限定的な移動ニーズに対応した交通事業の検討（定額タクシー等）

その他まちづくりに関する方針



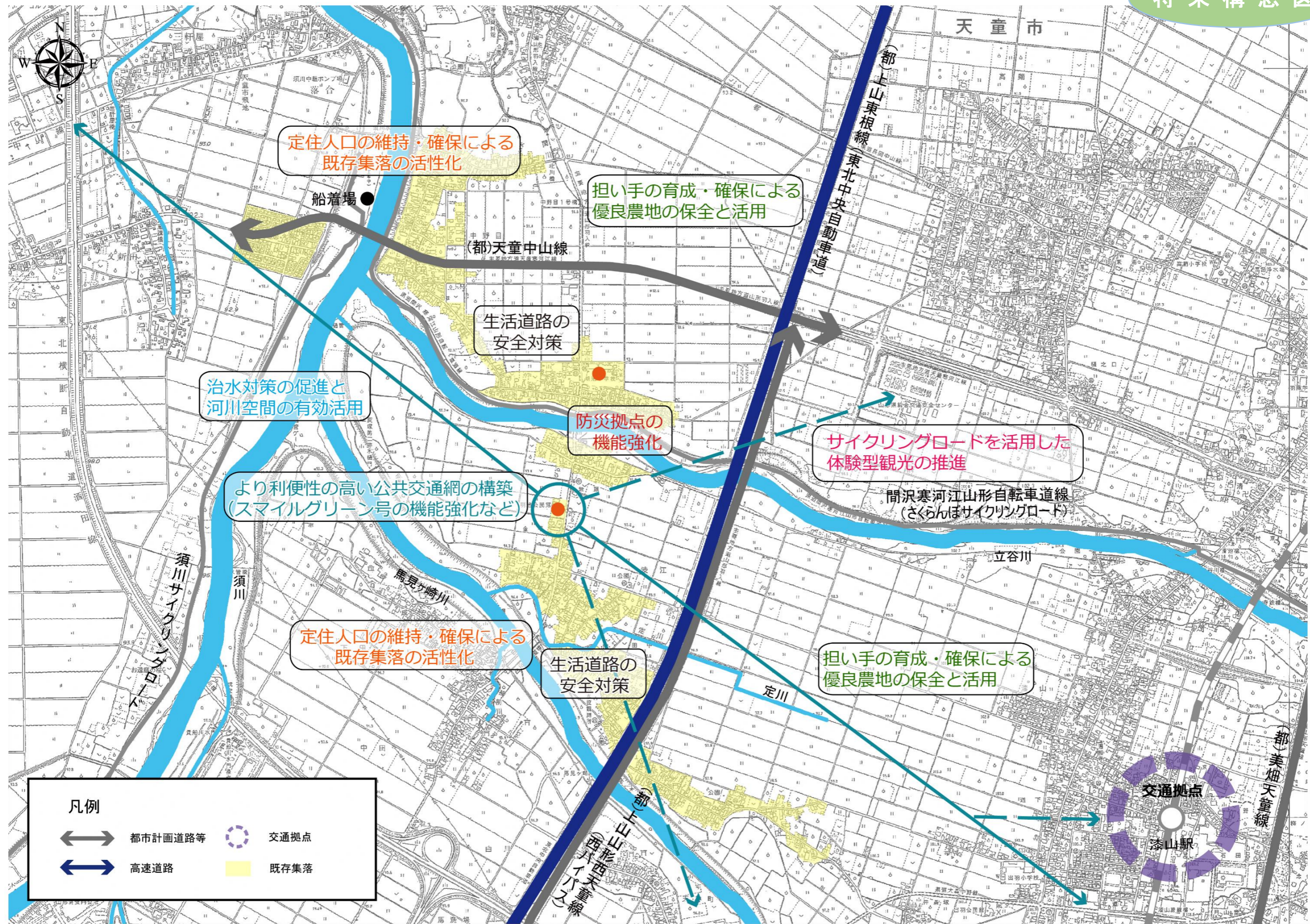
- 浸水被害の軽減に向けた治水対策の促進と洪水ハザードマップの見直しにあわせた防災対策により、多発する豪雨災害に備えた水害に強いまちづくりを進めます。
 - ・ 須川の河道掘削工事の事業促進
 - ・ 内水被害発生時の被害軽減対策の検討と排水ポンプの迅速な配備に向けた国や県との連携強化
 - ・ 洪水浸水想定区域内の市避難所の安全性確保に向けた検討
 - ・ 生活実態に即した洪水ハザードマップの見直しとマップの周知・普及
 - ・ 災害発生時の迅速かつ適切な避難に向けた防災意識の高揚・啓発

- 魅力ある河川空間は、住民のレクリエーション活動や憩いの場として有効活用を図ります
 - ・ 間沢寒河江山形自転車道線（さくらんぼサイクリングロード）や須川沿線サイクリングロードを活用した体験型観光の推進
 - ・ 地域が主体となった河川敷へのレクリエーションの場の整備への支援

- 郷土の歴史を物語る集落沿いの石積みや生け垣、板塀といった古くからの趣きある街並みを保全し、地域の魅力を高めます。

- 地域別構想の実現に向けた効率的かつ効果的なまちづくりを進めるため、地域の自主的なまちづくり活動に対する支援を図ります。
 - ・ まちづくりに関する専門家の紹介や派遣、情報提供
 - ・ 地域のまちづくり活動に対する市職員の積極的な派遣と活動支援

将来構想図



定住人口の維持・確保による
既存集落の活性化

担い手の育成・確保による
優良農地の保全と活用

生活道路の
安全対策

治水対策の促進と
河川空間の有効活用

防災拠点の
機能強化

サイクリングロードを活用した
体験型観光の推進

より利便性の高い公共交通網の構築
(スマイルグリーン号の機能強化など)

定住人口の維持・確保による
既存集落の活性化

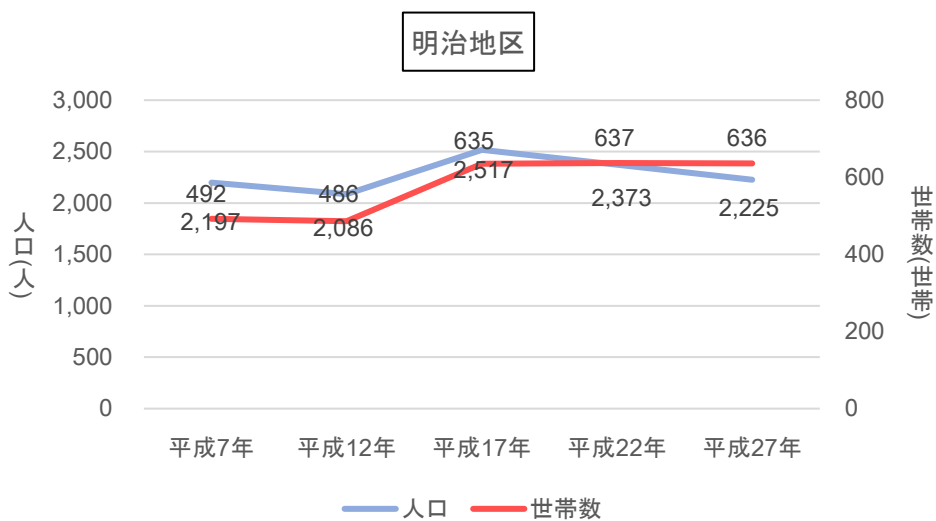
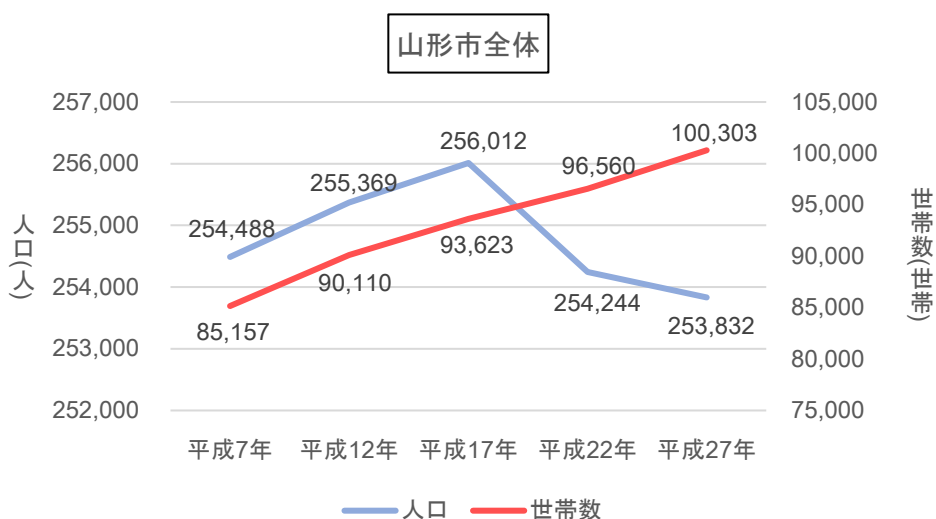
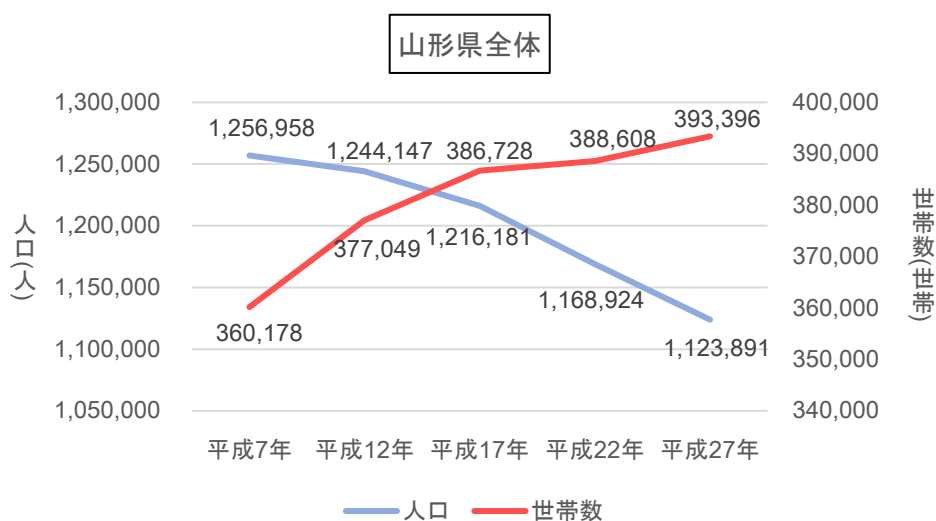
生活道路の
安全対策

担い手の育成・確保による
優良農地の保全と活用

凡例			
	都市計画道路等		交通拠点
	高速道路		既存集落

【地域データ】

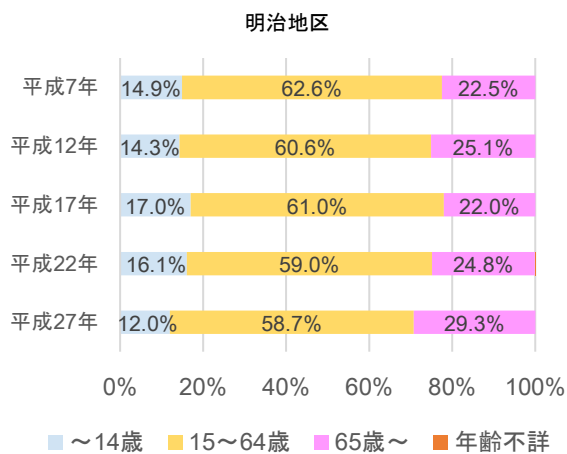
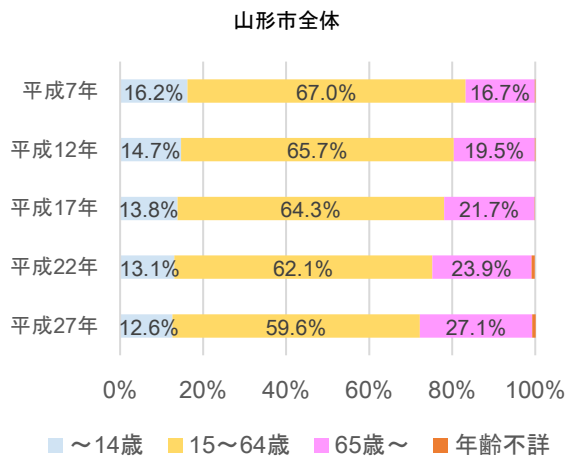
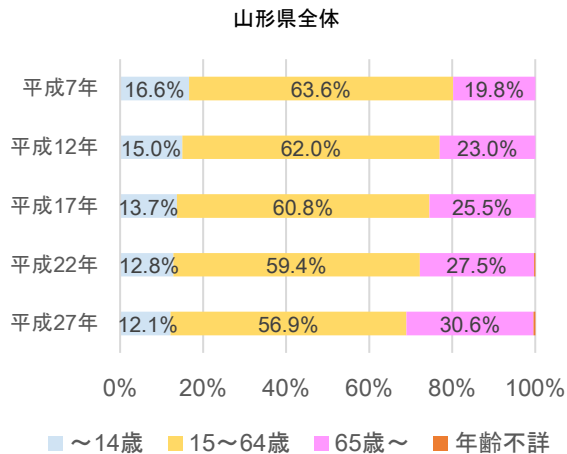
① 人口・世帯数



出典：国勢調査

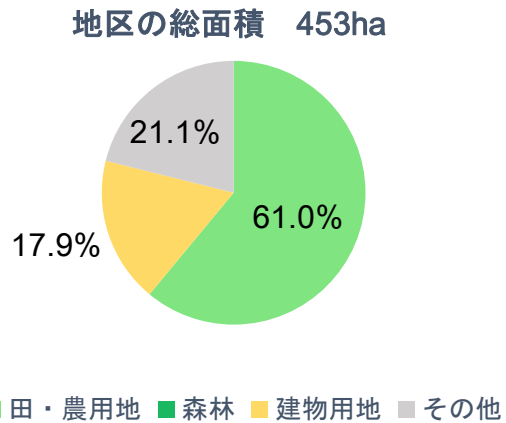
【地域データ】

② 年齢構成比



出典：国勢調査

③ 土地利用割合 (H26)



出典：国土数値情報（土地利用細分メッシュ）

④ 産業別就業者数

(単位)人

	平成7年	平成17年	平成27年
第1次	398	341	229
第2次	325	324	298
第3次	501	729	636
分類不能	7	8	79

出典：国勢調査

⑤ 産業別事業所数・従業員数

		平成18年	平成24年
事業所数 (件)	第1次	0	0
	第2次	15	14
	第3次	39	38
		平成18年	平成24年
従業員数 (人)	第1次	0	0
	第2次	73	56
	第3次	133	123

出典：事務所・企業統計(H18)、経済センサス(H24)

⑥ 商店数

	平成9年	平成26年
商店数(店)	20	9
店舗面積(m ²)	1,081	635

出典：商業統計

明治地区

【地域データ】

⑦ 居住住宅種類

(単位)戸

	平成7年	平成17年	平成27年
持ち家	489	626	631
公営住宅	0	0	0
民営借家	2	5	4
給与住宅	0	2	0
間借り	1	2	1
住宅以外	0	0	0

出典：国勢調査

⑧ 道路

国道	県道	その他	合計
0.0km	9.2km	17.8km	27.0km

出典：DRM (H28) のGISによる図上計測

⑨ 都市計画道路の整備状況 (H29.4.1現在)

整備済延長	事業中延長	未整備延長	計画延長
5.9km (99.8%)	0.0km (0.0%)	0.01km (0.2%)	5.9km

※整備済延長には概成済及び暫定2車線供用済路線を含む

※()内は計画延長に対する割合

出典：GISによる図上計測

⑬ 新築動向 (H24~28)

	専用住宅	その他住宅	商業施設	工場・倉庫	宿泊施設	娯楽施設	病院
戸数(戸)	26	0	0	7	0	0	0
面積(m ²)	3692.2	0	0	242.2	0	0	0

出典：山形市資料

⑩ 公園 (H29.4.1現在)

計画箇所	計画面積	開設箇所	開設面積	m ² /人
0	0	2	1.05	4.72

出典：山形市資料

⑪ 農地転用 (H24~28)

田		畑	
件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
1	26	0	0

出典：山形市資料

⑫ 開発許可申請状況 (H24~28)

市街化区域		市街化調整区域	
件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
0	0	4	1,466

出典：山形市資料

【地域データ】

⑭ 公共公益施設

小学校	明治小学校
中学校	
高校	
特別支援学校	
大学	
専修学校等	
認定こども園	
認可保育所	
幼稚園	
公官庁等(県・市)	
公民館・コミュニティセンター	明治コミュニティセンター
文化施設	
高齢者福祉施設	
その他の福祉施設	北部児童館
スポーツ・レクリエーション施設	
病院	
警察署	
消防署	